

仏 教 学 部

履 修 要 項

昭 和 59 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(日) 入学式(学部・短大)
积尊降誕会
- 9日(月) } 新入生オリエンテーション
- 12日(木) }
- 12日(木) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 13日(金) }
- 14日(土) 授業開始
- 12日(木) } 在校生成績質疑応答
- 17日(火) }
- 20日(金) } 1年次生単位履修届受付
- 21日(土) }
- 23日(月) } 2・3・4年次生単位履修届受付
(学部により受付日が異なる)
- 28日(土) }
- 29日(日) 天皇誕生日
- 5月1日(火) 祝禱日
- 3日(木) 憲法記念日
- 4日(金) 研修日(全学休業)
- 5日(土) こどもの日
- 14日(月) }
- 23日(水) } 2・3・4年次生健康診断
- 6月1日(金) 祝禱日
- 11日(月) 卒業論文論題提出締切(正午)
- 7月1日(日) 祝禱日
- 9日(月) }
- 14日(土) } 中間試験(授業平常通り)
- 15日(日) 盂蘭盆会
- 16日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
(授業休講)
- 17日(火) }
- 18日(水) 夏季休暇第1日

後 期

- 9月10日(月) 授業再開
- 12日(水) 前期定期試験欠試届(追試申込)
提出締切
- 13日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大国文・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 20日(木) }
- 15日(土) 敬老の日
- 17日(月) } 前期定期試験成績発表および再試験
申込受付
- 18日(火) }
- 23日(日) 秋分の日
- 26日(水) }
- 28日(金) } 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(土) 両祖(道元・瑩山禅師)忌
- 10月1日(月) 祝禱日
- 2日(火) }
- 5日(金) } 1年次生健康診断
- 5日(金) 達磨忌
- 4日(木) } 歴史・社会学科(1年次生)専攻コ
ース指定届受付
- 5日(金) }
- 10日(水) 体育の日
- 11日(木) }
- 12日(金) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(月) 第102回開校記念日
- 11月1日(木) 祝禱日
- 3日(土) 文化の日
- 14日(水) }
- 16日(金) } 転部科試験願書受付
- 21日(水) 太祖(瑩山禅師)降誕会
- 23日(金) 勤労感謝の日
- 30日(金) 転部科試験
- 12月1日(土) 祝禱日
- 5日(水) }
- 13日(木) } 編入学願書受付
- 8日(土) 成道会
- 10日(月) 卒業論文提出締切(正午)
- 18日(火) 冬季休暇第1日
- 19日(水) 編入学試験

昭和60年

- 1月8日(火) 授業再開
- 15日(火) 成人の日
- 16日(水) }
- 26日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(土) 高祖(道元禅師)降誕会
- 28日(月) }
- 2月5日(火) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月1日(金) 祝禱日
- 7日(木) } 定期試験欠試届提出締切
卒業論文口頭試問
- 11日(月) 建国記念の日
- 15日(金) 涅槃会
- 20日(水) }
- 21日(木) } 学部4年次生・短大生成績発表およ
び追・再試験申込受付
- 27日(水) }
- 3月5日(火) } 学部4年次生・短大生追・再試験,
学部1・2・3年次生追試験
- 3月1日(金) 祝禱日
- 19日(火) 卒業生名簿発表
- 21日(木) 春分の日
- 25日(月) 卒業式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(3)
3.	学 士 号	(4)
III	授業科目の履修方法	(5)
1.	一般教育科目の履修方法	(5)
2.	外国語科目の履修方法	(6)
3.	保健体育科目の履修方法	(7)
4.	基礎教育科目の履修方法	(9)
5.	専門教育科目の履修方法	(9)
6.	随意科目の履修方法	(14)
7.	再履修科目の履修方法	(14)
	※コード番号について	(15)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(17)
1.	履修科目の登録	(17)
2.	履修届記入上の注意	(18)
3.	履修届(時間割)の作成順序	(19)
V	試験および成績評価	(20)
1.	定期試験	(20)
2.	中間試験	(20)
3.	追・再試験	(20)
4.	成績評価・単位認定	(20)
5.	進級基準	(21)
6.	受験者心得	(21)
VI	クラス制およびクラス主任	(23)
VII	教職課程・資格講座	(23)
VIII	事務取り扱いについて	(24)
IX	届書・願書について	(25)
X	各種証明書取扱い窓口	(26)
	講 義 内 容	(27)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	24	132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専 門 教 育 科 目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒 業 論 文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、適当な選択科目を履修し、4年次において学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て指定の期日6月11日（月）までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

- (a) 論文作成にあたっては常に指導教授と相談して、その指導を受けなければならない。
- (b) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。
- (c) 論文の枚数は序文より数えて50枚（100ページ）以上、100枚（200ページ）以内とし、それぞれページを記入すること。

(d) 表紙は指定のものを使用し，論文を二つ折りにして右とじとする。

(e) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文提出

論文は，12月3日（月）から12月10日（月）正午までに教務部へ提出すること。

論文は，誤字，脱字，内容等について再点検し提出すること。

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授によって審査され，論文の内容について口頭試問を2月7日（木）に行ったのち合否を判定する。

3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し，卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し，次の学士の称号が与えられる。

仏教学部	禅学科	}	文学士
	仏教学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配分された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

人文分野	4単位ずつ	3科目	計	12単位	}	合計	6科目	24単位
社会分野	4単位ずつ	2科目	計	8単位				
自然分野	4単位	1科目		4単位				

※2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

分野	授業科目	単位	履修科目数	備考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」を含めて3科目選択必修	
	哲学	4		
	論理学	4		
	文学	4		
社会分野	法学憲法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2科目選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	経済学	4		
	社会学	4		
自然分野	自然科学概論	4	1科目選択必修	
	心理学	4		
	人類学	4		

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の計2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは英会話または英語LLに代替できる	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2			
英会話	2			
英語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること。	
ドイツ語 1R	2	講読		
フランス語 1G	2	文法		
フランス語 1R	2	講読		
中国語 1G	2	文法		
中国語 1R	2	講読		
スペイン語 1G	2	文法		
スペイン語 1R	2	講読		
ロシア語 1G	2	文法		
ロシア語 1R	2	講読		

※英語科目内容

英語 1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語 1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2AⅠ	2		中 国 語 2AⅠ	2	講 読
英 語 2AⅡ	2		中 国 語 2AⅡ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅠ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅠ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅡ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅡ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅠ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅠ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅡ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅡ	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通しはば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ応用力を修得する。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分は、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については別に定める。
- ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1 (禅・仏・国)	月・2 (英・地)	月・3 (歴・社)
陸上競技 ◎森本 体操 三幣 ソフトボール 太田 トレーニング 武藤 室内球技 久保田 テニス 浅野 卓球 秋田 剣道 上山	剣道 ◎上山 陸上競技 森本 サッカー 原山 ソフトボール 太田 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤	ソフトボール ◎太田 陸上競技 森本 体操 三幣 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤 卓球 村松

再履修クラス（2年次生以上の再履修者クラスで授業は本校で行う）

火・3	水・1	水・2
室内球技 ◎長浜 太極拳 大石	室内球技 ◎原山 剣道 上山	室内球技 ◎原山 剣道 上山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い、毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれ担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には、担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見しておくこと。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎仏教学	4	
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分れ、各学科で定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって充分検討した上で履修すること。

なお一度単位を修得した科目については再度履修しても単位にはならない。

禪 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	禪 学 概 論	4		
	禪 宗 史 I	2	中国禅宗史	
	宗 典 講 読 I	2	修証義・用心集・随聞記	
	禪 学 実 習 I	2	坐禅（坐禅儀・用心記）	
三 年 次	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 宗 史 II	2	日本禅宗史	
	宗 典 講 読 II	2	大清規・信心銘拈提	
	禪 学 講 義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禪 学 演 習 I	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禪 学 実 習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
四 年 次	演 習 I	4		
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	禪 学 演 習 II	2	洞山録・永平広録・臨濟録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅学科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
禅 学 研 究	4		現 代 哲 学 概 説	4	
禅 籍 講 義	4		哲 学 史	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV (IIIは休講)	哲 学 演 習	4	
禅 特 講	4		東 洋 思 想 研 究	4	
禅 学 思 想 史	4		宗 教 学 概 論	4	
詩 偈	4		新 宗 教 概 説 新 神 道 教 概 説 宗 教 哲 学 説 学	4	59年度は神道概説(輪番開講)
日 用 経 典	4		宗 教 史	4	
禅 美 術	4		キ リ ス ト 教 史	4	
仏 教 概 論	4		パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 研 究	4	休講	パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 教 理 史 I	2	印度	パ ー リ 語 演 習	4	休講
仏 教 教 理 史 II	2	中国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
印 度 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
中 国 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4	休講	チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V (Iは休講)	中 国 文 学 概 論	4	
仏 典 研 究	4		中 国 文 学 演 習	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
各 宗 要 (浄土学/真言学/日蓮教学)	4	59年度は真言学 (輪番開講)	宗 教 教 育	4	
仏 教 民 俗 学	4		宗 教 行 政	4	隔年開講(休講)
仏 教 美 術	4		教 化 法	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		青 少 年 教 化 法	4	
青 少 年 指 導 演 習	4		心 理 学 概 論	4	
哲 学 概 説	4				

仏 教 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	仏 教 概 論	4		
	仏 教 教 理 史 I	2	印度仏教教理史	
	仏 典 演 習 I	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禪 学 実 習 I	2	坐禅(坐禅儀・用心記)	
三 年 次	仏 教 教 理 史 II	2	中国仏教教理史	
	印 度 哲 学 史	2		
	経 典 講 読 I	2	法句経・四十二章経・遺教経・心経・金剛般若経	
	仏 典 演 習 II	2	起信論・三論玄義・四教儀・五教章	
	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 学 実 習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
	演 習 I	4		
四 年 次	経 典 講 読 II	2	法華寿量品・維摩経 普門品・般若経	
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏 教 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 研 究	4	休講	現 代 哲 学 概 説	4	
印 度 仏 教 史	4		哲 学 史	4	
中 国 仏 教 史	4		哲 学 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		東 洋 思 想 研 究	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4	休講	宗 教 学 概 論	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V (Iは休講)	新 宗 教 概 説 神 道 教 概 説 宗 教 哲 学	4	59年度は神道概説(輪番開講)
仏 典 研 究	4		宗 教 史	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		キ リ ス ト 教 史	4	
各 宗 要 (浄土学) 綱 要 (真言学) (日蓮教)	4	59年度は真言学 (輪番開講)	パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 民 俗 学	4		パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 美 術	4		パ ー リ 語 演 習	4	休講
禅 学 概 論	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
禅 学 研 究	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
禅 宗 史 I	2	中国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
禅 宗 史 II	2	日本	チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV (IIIは休講)	チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
禅 特 講	4		中 国 文 学 概 論	4	
禅 籍 講 義	4		中 国 文 学 演 習	4	
禅 学 思 想 史	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
詩 偈	4		宗 教 教 育	4	
日 用 経 典	4		宗 教 行 政	4	隔年開講(休講)
禅 美 術	4		教 化 法	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		青 少 年 教 化 法	4	
青 少 年 指 導 演 習	4		心 理 学 概 論	4	
哲 学 概 説	4				

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学年とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日本宗教文化史	4		日 本 語 F	2	(初級・中級)
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 F L L	2	(初級・中級)
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 F L L	2	(初級・中級)
中 国 語 F	2		中 国 語 F L L	2	(初級・中級)
ス ペ イ ン 語 F	2		ス ペ イ ン 語 F L L	2	(初級・中級)
ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 F L L	2	(初級・中級)

※日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

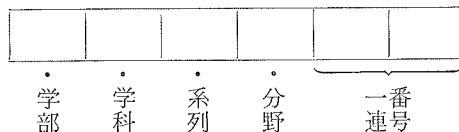
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。再履修科目は履修制限数には含まれない。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部, 学科番号は「学生番号について」での説明のとおり

(c) 系列, 分野区分について

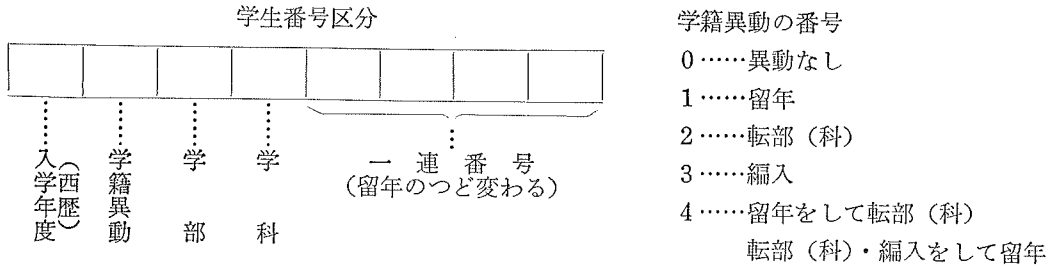
授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一般教育科目	0	
人文分野		1(必修), 2(選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	1
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
体育実技		1
保健体育理論		2
専門教育科目	5	
必修科目		1.2.3
選択科目		5.6.7.8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3.4.5.6.7.8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（留年・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた



学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1		法 学 部	4	
禅 学 科		1	法 律 学 科		1
仏 教 学 科		2	政 治 学 科		2
文 学 部	2		經 営 学 部	5	
国 文 学 科		1	經 営 学 科		1
英 米 文 学 科		2	短 期 大 学	8	
地 理 学 科		3	国 文 科		1
歴 史 学 科		4	英 文 科		2
社 会 学 科		5	放 射 線 科		3
經 済 学 部	3				
經 済 学 科		1			
商 学 科		2			

(例)

4	0	1	1	0	0	1	2	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮			⋮	
一	九	八	年	入	学		部	
学	籍	異	動	な			し	
			仏	教		学 部		
			禅	学		科		
			12					番

(1984年度入学・仏教学部禅学科12番)

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	14 科目	—
2 年 次	14 科目以内	17 科目以内
3 年 次	14 科目以内	17 科目以内
4 年 次	1 科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に充分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること）

ロ. 履修届の日時・場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は，教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時間限	ドイツ語 1 G	312201	百 済	879
二時間限	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	314201		622
三時間限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
四時間限	論 理 学	310203	国 嶋	429
	自然科学概論	310401	漆 原	121
五時間限	体 育 実 技	314101	大石(武)	141

正しい記入例

曜日	時間	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
月 (1)	1		ドイツ語 1 G	3 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前)	3 1 4 2 0 1	長 浜	9 9 3
	3		宗 数 学 I	3 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	3 1 0 2 0 3	国 嶋	4 2 9
	5		体 育 実 技	3 1 4 1 0 1	大石(武)	1 4 1

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時間を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
 - ニ. その他, 不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎仏教学, 仏書解説Ⅰ (必修)	2
5	一般教育科目	{人文分野, 開講科目の中から2科目を選択必修 {社会分野, 開講科目の中から2科目を選択必修 {自然分野, 開講科目の中から1科目を選択必修	2
			2
			1
1年次履修制限科目数			14

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記入し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・禅学実習・その他実験実習を伴なう科目は、追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点~80点)・良(79点~70点)・可(69点~60点) および不可(59点~

0点)とし、可以上を合格、不可は不合格とする。

ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。

ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。

ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は70点以下とする。

5. 進級基準

◎正規進級

上級学年に進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。

ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。

ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

◎注意進級

正規の進級基準に達しないが、教育的配慮から進級を認める。ただし、注意進級が再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、29~20単位までとする。

ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、59~50単位までとする。

ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

6. 受験者心得

イ. 指定された試験場(教場)で受験すること。

ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。

ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。

ニ. 答案の作成はペン書き(ボールペン可)を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。

ホ. 次の場合は退場を命じ、その答案を無効とする。

(1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき

(2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき

(3) 監督者の指示に従わないとき

ヘ. 次の場合には、その答案を無効とする。

(1) 無記名のもの

(2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき

(3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し、原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があって、当該教授会が不正行為と認定したときは、学則第57条により懲戒する。

なお、懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか、試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

Ⅵ クラス制およびクラス主任

イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。

ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅶ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得の課程講座は、教職課程・学校図書館司書教諭講座、博物館学講座および社会福祉主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、および社会福祉主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的・使命を達成する博物館および社会福祉を増進させるための機関等の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は、当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課程・講座名		備考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	〃	
博 物 館 学 講 座	〃	
社会福祉主事講座	〃	

VIII 事務取り扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にご相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員により連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

Ⅸ 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	⑦

X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一 通 100円 (英文証明書) (一通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし、教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

講 義 内 容 目 次

一般教育科目(共通).....	(29)
外国語科目(共通).....	(33)
保健体育科目(共通).....	(34)
随意科目(共通).....	(37)
基礎教育科目.....	(40)
専門教育科目.....	(42)
教職および資格講座.....	(53)

一般教育科目

人文分野

宗教学 I (禅) (松本 皓一)	31
宗教学 I (仏教) (松本 皓一)	31
宗教学 I (再クラス) (奈良 康明)	31
宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄)	31

社会分野

哲学 (円谷 裕二)	31
論理学 (山下 太郎)	31
文学 (篠原 寿雄)	31
法学憲法 (馬越 道夫)	32
経済学 (有井 行夫)	32
社会学 (角家 文雄)	32

自然分野

自然科学概論 (斉藤 浩三)	32
人類学 (中島 寿雄)	32
心理学 (谷口 泰富)	32

外国語科目

英会話 (Pratt, T. C. Dean)	33
-------------------------------	----

保健体育科目 (共通)

体育実技	34
------------	----

随意科目

日本宗教文化史 (脇本 平也)	37
ドイツ語 F (栗原 万修)	37
ドイツ語 FLL (初級) (小林佳世子)	37
ドイツ語 FLL (中級) (松本 洋子)	37
フランス語 F (小玉 齊夫)	37
フランス語 FLL (初級) (松岡 宏一)	37
フランス語 FLL (初級) (マドレーヌ・マルタン)	37
フランス語 FLL (中級) (マドレーヌ・マルタン)	38
中国語 F (刈間 文俊)	38
中国語 FLL (初級) (果 荃 英)	38
中国語 FLL (中級) (羅 漾 明)	38
スペイン語 F (佐藤 美子)	38
スペイン語 FLL (初級) (ホワン・ナパロ)	38
スペイン語 FLL (中級) (ホワン・ナパロ)	38

ロシア語 F (岡沢 宏)	38
ロシア語 FLL (初級) (タチャーナ・パリーソヴナ・野村)	38
ロシア語 FLL (中級) (タチャーナ・パリーソヴナ・野村)	38
日本語 F (初級) (留学生対象) (杉山 秀子)	39
日本語 F (中級) (留学生対象) (大塚 純子)	39

基礎教育科目

基礎仏教学 (石井 修道)	40
基礎仏教学 (石川 力山)	40
基礎仏教学 (吉津 宜英)	40
仏書解説 I (伊藤 秀憲)	40
仏書解説 I (峯岸 孝哉)	40
仏書解説 I (原田 弘道)	40
仏書解説 II (岡部 和雄)	40
仏書解説 II (池田 魯参)	41
仏書解説 II (皆川 広義)	41
仏教語解説 (新井 勝龍)	41
仏教語解説 (伊藤 隆寿)	41
仏教語解説 (石川 力山)	41

専門教育科目

禅学概論 (鏡島 元隆)	42
禅学思想史 (峯岸 孝哉)	42
禅宗史 I (田中 良昭)	42
禅宗史 II (原田 弘道)	42
禅学実習 I (酒井得元・河村孝道・小坂機融)	42
禅学実習 II (鈴木格禅・伊藤秀憲)	42
禅学講義 (小坂 機融)	43
禅学演習 I (青龍 宗二)	43
禅学演習 II (河村 孝道)	43
宗典講読 I (新井 勝龍)	43
宗典講読 II (若月 正吾)	43
宗典講義 I (酒井 得元)	43
宗典講義 II (光地 英学)	43
日用経典 (櫻井 秀雄)	43
禅学特講 I (原田 弘道)	44
禅学特講 II (鏡島 元隆)	44
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	44
禅特講 (椎名 宏雄)	44
詩 偈 (山口 晴通)	44
禅 美 術 (竹内 尚次)	44
仏教概論 (山内 舜雄)	44
印度仏教史 (袴谷 憲昭)	45
中国仏教史 (佐藤 達玄)	45

日本仏教史 (山内 舜雄)	45
仏教教理史 I (印度) (平井 俊栄)	45
仏教教理史 II (中国) (田中 良昭)	45
印度哲学史 (金沢 篤)	45
経典講読 I (石川 力山)	45
経典講読 II (岡部 和雄)	45
仏典演習 I (佐藤 達玄)	46
仏典演習 I (吉津 宜英)	46
仏典演習 II (池田 魯参)	46
仏典演習 II (伊藤 隆寿)	46
仏典研究 (岡部 和雄)	46
仏教特講 II (納富 常天)	46
仏教特講 III (鎌田 茂雄)	46
仏教特講 IV (太田 久紀)	46
仏教特講 V (佐藤 達玄)	47
外国語仏書演習 (吉津 宜英)	47
パーリ語 (初級) (福田 孝雄)	47
パーリ語 (上級) (福田 孝雄)	47
サンスクリット語 (初級) (金沢 篤)	47
サンスクリット語 (上級) (金沢 篤)	47
サンスクリット語演習 (袴谷 憲昭)	47
チベット語 (文法) (袴谷 憲昭)	47
チベット語 (講読) (山口 瑞鳳)	48
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	48
宗教学概論 (松本 皓一)	48
宗教史 (松本 皓一)	48
キリスト教史 (秀村 欣二)	48
神道概説 (土岐 昌訓)	48
各宗綱要 (真言学) (福田 亮成)	48
仏教美術 (林 良一)	48
仏教民俗学 (和田 謙寿)	48
宗教教育 (櫻井 秀雄)	49
教化法 (皆川 広義)	49
青少年教化法 (皆川 広義)	49
青少年問題研究 (和田 謙寿)	49
青少年指導演習 (和田 謙寿)	49
哲学概説 (斎藤 知正)	49
現代哲学概説 (中島 盛夫)	49
哲学史 (中村友太郎)	50
哲学演習 (斎藤 知正)	50
中国文学概論 (飯田 利行)	50
中国文学演習 (飯田 利行)	50
東洋思想研究 (船津 富彦)	50
心理学概論 (篠原 英寿)	50
禅学研究 (青龍 宗二)	50
禅籍講義 (青龍 宗二)	50
演習 I (永井 政之)	51

一般教育科目

人文分野

宗教学Ⅰ（禅）

松本 皓一

宗教についての学問上の基礎問題にふれ、禅理解に対する広い視野を開拓する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗教学Ⅰ（仏教）

松本 皓一

宗教についての学問上の基礎問題にふれ、仏教理解に対する広い視野を開拓する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗教学Ⅰ（再クラス）

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味と機能、構造をあきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学Ⅰ（再クラス）

岡部 和雄

前半で宗教とは何かという問題を現代とのつながりの中で具体的に考えていく。後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を呈示したい。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』

（日新出版）

社会分野

哲 学

円谷 裕二

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の習得にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

山下 太郎

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

文 学

篠原 寿雄

禅語録や仏教経典を読む基礎知識を学ぶことを主眼にしたい。そのために漢文文献の訓読法、その味い方などを学習する。また、唐宋代の口語（俗語）学習にも留意して、将来の禅語録や『正法眼蔵』研究に資したい。

〔教科書〕 随時指示したい。

